



第4段階：ガリラヤにおける大宣教

I. イエスの第三回ガリラヤ巡礼とその余波

デイリー・ジーザス・ニュース #108

イエスと使徒たちはガリラヤへの3度目かつ最後の旅に出発する

MT 11.1 (並行テキスト：マルコ6. 7, 12-13; ルカ9.1, 6)

=====

イエスが十二弟子に命じ終わると、彼らは二人ずつ村々を巡り、悔い改めよという福音を宣べ伝えた。そして、至る所で多くの悪霊を追い出し、多くの病人に油を塗って癒やした。

マタイイエスはそこから出て行って、彼らの町々で教え、宣教を続けました。

=====

注：混合テキストでは、原典の福音書を上付き文字で識別します。マタイ = ^{MT}、マルコ = ^M、ルカ = ^L、ヨハネ = ^J、使徒行伝 = ^A。」この上付きID」は引用文の冒頭に挿入され、別の上付き文字が現れるまで、その聖書の書名を示します。また、**イエスの言葉は赤字のイタリック体で示します**。旧約聖書からの引用は大文字で示します。

コンテキストダイジェスト	
位置	ガリラヤ全域
タイムライン	10月中旬から4月上旬 (21 ~ 26ヶ月目)
イエスの生涯の文脈	第4段階：ガリラヤにおける大宣教

	I. イエスの第三回ガリラヤ巡礼とその余波
タイトル	1. イエスと使徒たちはガリラヤへの3度目、そして最後の旅に出発する

十二使徒の訓練を終えると、イエスはすぐに彼らを「先遣隊」として、第三回にして最後のガリラヤ巡回に派遣しました。この巡回は秋から冬にかけて、10月中旬から4月初旬にかけて行われ、イエスの宣教活動における第三回目の過越祭で終わりました。この時期は、イエスとその教えに対する反対がますます強まる時期でした。

3巡回の出来事について多くを記していません。実際、今日の朗読で巡回について述べている要約文を除けば、福音書に記されているこの巡回に関する出来事はすべて、巡回の最後の数日と、その直後に起こったものです。

旅の終わりに、イエスの死と復活まであとわずか一年となりました。十字架は地平線上にさらに大きく迫っていました。イエスが宣教活動の中で初めて「十字架を背負う」(マタイ10:38)という概念に言及したのは、出発前の使徒たちとの訓練の時であったことは驚くべきことではありません。

3度のガリラヤ旅行は、いずれもイエスの宣教における重要な転換点となりました。3度目のガリラヤ旅行も例外ではありませんでした。イエスが弟子たちを自らの代理人として宣教に派遣したのは、この時が初めてでした。弟子たちを「先遣隊」として用いることは、イエスにとって新たな戦略であり、後期ユダヤおよびペレアン宣教(イエスの生涯と宣教の第5段階)においても用いられ続けました。この新たな展開には、2つの理由がありました。

まず、二人一組の巡回伝道団が各町村を訪問した際、直接的な効果は、人々をイエスの来臨に備えることでした。どの村も、第1回と第2回の巡回伝道で、少なくとも二度はイエスの奇跡的な癒しの働きと、神の国の福音の力強い教えと説教を目撃していました。しかし、主が使徒たちに癒しと悪魔祓いの霊的な賜物を与える力は、彼の力強い証しの一つでした。

第4段階：ガリラヤにおける大宣教

I. イエスの第三回ガリラヤ巡礼とその余波

メシアの権威。イエスは、荒くれ漁師や、便宜を図って仕える元徴税人に奇跡的な能力を与え、御名によって宣教させるほどの力を持っていました。これはイエスの宣教活動における、全く予想外の、刺激的な新たな局面でした。ヘロデ・アンティパスが、エリヤが死から蘇ったのではな

いかと疑うほどでした。奇跡的な力を持つことは確かに重要ですが、同時に他の人々にその力を与えることができるということは、全く別のことです。

使徒たちの宣教の長期的な影響は、イエスが天に昇られた後の将来の使徒としての奉仕に備えることであった。彼らは信仰による生活、祈りの力、必要を満たしてくださる神の忠実さ、イエスと同じように教え、説教し、癒すための超自然的な賜物と備えを経験し、同時に迫害も経験した。これは、彼らが肉体をもってイエスに従った期間において、福音宣教に積極的に携わった唯一の時であったが、それは彼らが初期の教会を設立し、イエスの言葉によって教会を築き上げ、「すべての国の人々を弟子とする」というイエスの使命を生涯にわたって本格的に推進するのに十分な備えとなった。

この三度目の巡回は、イエスがガリラヤで個人的に行った最後の伝道でもありました。春の巡回を終えると、イエスはガリラヤを離れ、北と東の異邦人地域を巡回することになりました。大勢の群衆がイエスに従い続けた一方で、ガリラヤ本土での歓迎は徐々に薄れていきました。ユダヤ人指導者たちからの敵意と反対は続き、パリサイ人への恐れから、多くの民衆がイエスに背を向けるようになっていったのです。

だからこそ、イエスは十二使徒が迫害と抵抗を乗り越えると語ったのです。反対はあまりにも激しくなり、第三巡回の終わりには、弟子たちの中からさえイエスを見捨てる者が出るでしょう。時代はますます厳しくなっていました。

実務的な観点から、ガリラヤ巡回はそれぞれ約6か月かかったと仮定しました。その根拠を確認しましょう。ガリラヤには少なくとも25の町と村があり、そのうち10は福音書に具体的に記されています。イエスは、各町を訪れた際に安息日に会堂で説教するという習慣を維持しました。これは、各町に関するイエスの最も重要な教えと説教の機会でした。

したがって、ガリラヤの各町を巡るには最低でも25週間、つまり約6ヶ月かかります。イエスの宣教活動における既知の出来事、例えば過越祭の時期は、この推定巡回期間にぴったり当てはまります。例えば、3回目の巡回旅行の終わりは春、イエスが5000人に食事を与えた過越祭（イエスの宣教活動における3回目の過越祭）の直前であったことがわかります（ヨハネ6章4節）。この旅は1年前、イエスの宣教における二度目の過越祭の直前に終了していました。25の町をそれぞれ土曜日に訪れるという計画は、イエスの三度の旅それぞれに6ヶ月間の期間を要しました。福音書に記されている過越祭やその他の詳細は、この計画と完全に一致しています。

応用：

ガリラヤへの第三巡回に先立ち、イエスは弟子たちに、彼らが宣教において完全にイエスと一体となり、イエスの代理人となることを教えました。彼らはイエスの御名において、イエスの賜物

に従い、イエスの霊の力によって仕え、自分自身のメッセージではなく、イエスのメッセージを語るように命じられました。

「説教する」というギリシャ語は、実際には「伝令官として告げる」という意味です。王は、領土内の主要な場所に布告や布告を文書で掲示し、多数の「伝令官」を派遣しました。伝令官は領土内のあらゆる場所を訪れ、王の文書による布告を人々に口頭で伝える責任を負っていました。彼らは「王はこう仰せられた！」と言い、そして王のメッセージを伝えました。使徒たちが行ったこと、そして私たちが行わなければならないことはまさにこれです。

「説教」とは、まさにそれを行うこと、つまり、私たち自身の福音ではなく、王イエスの福音を伝えることです。すべての弟子は王の証人、つまり「伝道者」なのです。

あなたの王のメッセージをあなたの地域のすべての人々にもっと効果的に伝えるために何ができるでしょうか。

あなた自身の教会の奉仕活動の中で、これをより効果的に行うにはどうすればよいでしょうか。